

被災地派遣レポート〈第101回〉

都市整備局西部住宅建設事務所建設課 寺門 健一さん

1 はじめに

私は、平成25年1月1日から平成25年3月31日までの3ヶ月間、岩手県沿岸広域振興局土木部岩泉土木センターに派遣されました。所在は、岩手県岩泉町にあり、盛岡駅よりバスで約2時間かかります。

2 職場について

赴任先の岩泉土木センターは、宮古市にある沿岸広域振興局の出先事務所であり、平成23年度から継続して東京都港湾局が派遣を行っており、他自治体からの派遣職員は私一人だけです。管轄範囲は岩泉町と田野畑村の2町村で、職員数は岩泉土木センター全体で50名程、私が所属となった河川港湾課は岩手県職員9名と、他の派遣先に比べて小規模な部署です。

職員の方々のほとんどは官舎に住まわれているため、アットホームで雰囲気の良い職場です。年齢層も20代から50代まで幅広い年齢の方々が構成されていました。

3 業務内容

担当業務は、津波により被災した小本港の災害復旧事業でした。事業の進捗状況についてですが、公共施設を復旧するため、国に復旧費用を申請する災害査定が、平成23年度で申請が完了していました。平成24年度前半に工事を発注し、平成24年度後半は工事監督が主な業務となっていました。

私が赴任した時期は年度末であり、工事の設計変更が必要でしたが、当初設計が詳細設計ではなく平均的な断面等を使用した標準設計であったため、現場にあわせる内容の大幅な設計変更となりになりました。さらに、資材不足・人手不足が深刻な状況にあり、24年度内には工事完了が難しい状況であったため、繰越手続きも合わせて行いました。

現場監督を通じて、作業エリアが限られているため、思うほど工事が進められないもどかしさを感じました。被災した小本港はそれほど大きな港ではなく、内陸部で行っている工事の資材も小本港より陸揚げするため、詳細な工程調整が必要でした。

4 生活面について

1月は例年以上に寒く、最低気温がマイナス10℃となることがしばしばありました。地元の方でさえ、寒いと言うくらい冷え込みましたが、私が住んでいた住宅は新しいアパートで暖房器具も充実しており、快適に過ごすことができました。徒歩20分圏内に職場、スーパー、郵便局、銀行などがあり、生活には不自由をしませんでした。

5 派遣を終えて

派遣期間の3ヶ月を振り返ると、最初は長く感じていましたが、実際に仕事をしているとあっという間に時間が過ぎてしまいました。最終日に、センター所長より感謝の言葉とともに「ここでの経験を今後の仕事に役立ててください」との話もいただきました。さらに、「東京で地震が発生し、被災したときには真っ先に駆けつけます」と、東京都にとって頼もしい言葉もいただきました。

岩泉土木センターへの、東京都からの派遣は私で最後となりましたが、災害復旧事業はまだまだ続いております。復旧作業が一日も早く完了できることを願いながら、私の担当業務を岩手県職員の方に引継ぎをしました。

最後に、岩手県でお世話になった皆様に感謝したいと思います。また、今回の派遣を快く送り出していただいた職場の皆様にも感謝をさせていただき、報告いたします。

小本港位置図



被災前の小本港

